

陳 情	受 理 番 号	103	受 理 年 月 日	令和元年 8 月 28 日	付 託 委員会	厚生経済
件 名	学校におけるフッ化物洗口事業の推進に関する陳情					

学校におけるフッ化物洗口事業の推進に関する陳情

平成30年度的那覇市立小中学校児童生徒のうち、う蝕（むし歯）処置済み並びに未処置の歯の数を合わせて10本以上ある者は494人（28,490人中）となっており、このような口腔崩壊の児童生徒の多さは大きな問題となっています。那覇市もこの大きな社会問題に対して、フッ化物洗口事業に平成31年度の予算を付けて前向きな姿勢をいただいていることに対し感謝申し上げます。

学童期のう蝕（むし歯）については、歯の痛み等で授業に集中することができないため学力低下につながるだけでなく、物を噛みつぶす機能に支障が生じることによる食習慣の乱れや偏食の促進の他、口元の容姿が良くないため子どもらしく大きな口を開けて笑うことも控えるなど、情緒面での悪影響も考えられます。

また、口腔の状態と全身の健康は密接な関係もありますので、口の健康を守ることが身体全体の健康を守ることにつながり、医療費の抑制にも大きく寄与できます。

医療費が現物給付となり歯科診療所への通院がしやすい環境になってきたと言われてはいますが、保護者の経済的な家庭環境（特に貧困家庭や母子父子家庭など）の影響により歯科治療のために通院する時間的な余裕がないことには変わりはなく、依然としてう蝕（むし歯）が放置されているのが現状です。その結果として生活困窮家庭の子は歯の状態が悪化しているとの新聞報道（琉球新報、令和元年7月30日付）もあります。

学校でフッ化物洗口を行うことは、う蝕（むし歯）を予防し、普段、歯科診療所に通えない児童生徒の良好な口腔状態を保つことで全身の健康を守ることには大きな効果を得ることを専門職の立場から強く訴えるものです。

そのためには南部地区歯科医師会として那覇市に対し本事業への協力を厭わないところであり、市と協力して市民の生活の質の向上に尽力したいと考えています。

南部地区歯科医師会は、貧困家庭への経済格差や教育格差への直接的な支援は難しいですが健康格差を是正することのために下記の項目について要望します。

記

1. 全那覇市内公立小中学校におけるフッ化物洗口の導入
2. 歯科医師会等を交えたPTAへの積極的なフッ化物洗口事業の説明